

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-155	15-067	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>Sleep and use of alcohol and drug in adolescence. A large population-based study of Norwegian adolescents aged 16 to 19 years.</p> <p>青年期における睡眠とアルコールおよび薬物使用－16～19歳のノルウェー人青少年を対象とした大規模集団調査</p>		
執筆者		
Sivertsen B, Skogen JC, Jakobsen R, Hysing M		
掲載誌		
Drug Alcohol Depend, 2015. 1(149): 180-6. DOI : 10.1016/j.drugalcdep.2015.01.045		
キーワード		PMID
睡眠、アルコールと薬物使用、青年期、疫学、精神保健		25707706
要 旨		
背景：		
<p>睡眠パターンの変化と薬物使用は青年期によく見られるものの、その関連の本質については我々の知る限り限定的である。本研究では、いくつかの睡眠障害・睡眠行動とアルコール・違法薬物濫用の関連について、大規模集団サンプルから得られたデータを用いて検討した。</p>		
方法：		
<p>2012年に16～19歳のノルウェー人青年9,328名(女性54%)を対象として大規模集団調査(ホルダランド青年調査)が実施された。自己申告による睡眠調査により、睡眠時間、睡眠不足、平日の就寝時刻と就寝時刻の変化、不眠症に関するデータを得た。CRAFFT質問票によるアルコール・薬物関連の問題があるかどうかに加え、アルコールおよび違法薬物利用の頻度・量を主たる従属変数とし、睡眠との関連を検討した。</p>		
結果：		
<p>すべての睡眠パラメータは、用量依存的に薬物使用と関連した。「短い睡眠時間」、「睡眠不足」、「就寝時刻の大きな変動」、「不眠症」いずれにおいてもアルコール・薬物利用/濫用のオッズ比が有意に高くなった。この関連は、社会人口学的要因およびうつ・ADHDを調整後、若干弱まるのみにとどまった。</p>		
結論：		
<p>本研究は、アルコール摂取・違法薬物濫用に関する検証済みの調査(CRAFFT調査)のみならず、睡眠行動・睡眠障害の詳細な調査を用いた研究であり、我々の知る限り睡眠とアルコール・薬物使用の関連を検討した初の集団研究である。本知見より、「睡眠障害」と「アルコール・薬物の利用/濫用」の関連について、重大な公衆衛生上の問題として認識するよう促す必要がある。</p>		